

登録コード	EKE17900	開講年度	2026				
授業科目	更新し続ける教育観				担当教員	伏木 久始	
英文授業名	Continuously Renewed View of Education				副担当	谷内 祐樹・徳井 厚子	
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	1-2年
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ						
	教育の専門職としての学識・技能				生成 A I の適切な利活用、子どもの特性を踏まえた学習指導の知識・スキルを発揮できる。		
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点				同調圧力を生み出す日本的な文化構造を多面的に説明できる。		
	2 4 E A カリ						
	子どもの多様なニーズへの対応力				・外国籍の児童・生徒や帰国子女、LGBTやHSPなど、特別な配慮が特に求められる子どもへの対応力を理解している。		
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				・既存の学校教育の一般的慣習にダウトをかけて、真に子どもの教育にとって意味のある教育実践のあり方や教師の関わり方を見つめ直せる。		
(2)授業の概要	・この授業は独立行政法人教職員支援機構・信州大学センターの支援を受けて、長野県総合教育センターとの連携講座として開講され、対面型の集中講義と一部オンライン（同期型）授業で行う。 ・第1回ではオリエンテーションとともに教育観の省察を行い、第2回～5回までの内容を対面型集中授業の形で長野県総合教育センターを会場に講義・演習を実施する。ここでは、長野県内の現職教員が希望研修として受講する講座を教職大学院生が一緒に受講して学び合う形を取る。第6～7回は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実という観点からの教育観の更新を意図した講義を展開する。 ・学校では「当たり前」のこととして実践していることに対しても、その教育的意義を問うことを通して、思考停止状態から脱して子どもにとって意味ある教育活動に置き換えていく発想を持てるように教育観を更新していく柔軟性を身につける。 ・既存の価値観に固執することなく、一人ひとりの多様性を尊重した教育実践を志向する取り組みを再構築する取り組みを演習方式で学び合う。 ・小中高の教職経験を持つ授業者が指導・助言にあたる。						
(3)授業計画	以下の授業予定は、受講生の確定後に参加者のニーズに応じて内容を調整します。 第1回：オリエンテーション：自己の教育観の省察（伏木）【遠隔等】 第2回：教室の中での異文化理解（徳井） 第3回：外国籍児童・生徒をめぐる問題（徳井） 第4回：特別な配慮が求められる子どもの学習権（谷内） 第5回：「主体的・対話的で深い学び」という授業改善（谷内） 第6回：「個別最適な学び」と「協働的な学び」という授業改善（伏木） 第7回：まとめと「ふりかえり」（伏木）【遠隔等】						
(4)成績評価の方法	・課題レポート等の内容及びグループディスカッションでのアウトプット内容等を総合的に評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(5)履修上の注意	・この授業は、本大学院に所属する学生のみならず、長野県総合教育センターの希望研修講座に応募した長野県内の現職教員との共修講座となるため、現職教職員が多数参加することになるが、そうした貴重な受講環境を積極的に生かして学んで欲しい。 ・令和8年度は第2回～第5回の授業を、6月8日（月）の1限～4限までの集中授業として、長野県総合教育センターを会場として実施する。県の希望研修講座として受講する現職教員と合同で学び合う貴重な機会に参加することになる。						
(6)質問、相談への対応および連絡先	・質問や相談はメールにて受け付け、適宜相談に応じる。 伏木久始 hfusegi@shinshu-u.ac.jp 徳井厚子 tokuias@shinshu-u.ac.jp （実務家教員）＊新年度に担当者名と連絡アドレスを公表する。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：地域や学校で継承されている伝統・慣習等を大切にしつつ、それぞれの現代的意義や未来を生きる子どもたちにとっての意義を問い直しながら、学ぶ側の論理に立って具体的な教育活動を分析・考察し、自らの教育観を更新し続ける意識を高めた。 「かなり上である」：地域や学校で継承されている伝統・慣習等を大切にしつつ、それぞれの現代的意義や未来を生きる子どもたちにとっての意義を問い直しながら、具体的な教育活動を分析・考察する中で、自らの教育観を見直す意識を高めた。 「やや上にある」：地域や学校で継承されている伝統・慣習等とそれらの現代的意義を問い直し、学ぶ側の論理に立って自らの教育観を見直す意識を高めた。 「水準にある」：地域や学校で継承されている伝統・慣習等とそれらの現代的意義を問い直し、自らの教育観を見直す意識を高めた。						
(8)事前事後学習の内容について	・eALPSおよびGoogle Classroomにセットされた学習資料を事前・事後に活用して理解を深めること。						
【教科書】	・特に指定しない。						
【参考書】	・奈須正裕・伏木久始『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を目指して』, 北大路書房, 2023年, 2,300円 ＊その他、授業の中で適宜紹介する。						